

# 令和7年度 学校評価報告書

4 段階 評価	A	ほぼできた	3.2 以上
	B	概ねできた	2.6~3.2未満
	C	やや不十分	2.0~2.6未満
	D	不十分	2.0 未満

## 島根県立江津工業高等学校

※アンケート質問項目の評点化: 4:強そう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない ※少数第2位を四捨五入して表示。 ※( )令和6年度

グランドデザイン		評価計画		自己評価				学校関係者評価		改善策		
学校像	生徒像	重点目標	評価項目	達成のための方策	生徒	保護者	教職員	評価	結果(抜粋)と課題	コメント(抜粋)	評価	
地域産業を担うテクノロジストの育成	・ 生徒自身が自らの成長を実感できる学校 ・ 地域産業を担う人材を育成する学校	人権感覚の涵養	他者との協働活動を育む指導	・「地域の人から学ぶ」の活動に体験的・対話的な要素を加え、学びを効果的に行うための事前学習を実施する。 ・生徒会を中心として通学路クリーンアップ活動を実施し、各部活動にも積極的に参加を促し、地域社会に貢献する。	3.3 (3.1)	3.2 (3.2)	3.1 (3.3)	A (A)	【結果】 ・「地域の人から学ぶ」で、江津市議会議員との意見交換や講師講座など、体験的・対話的活動を実施した。 ・生徒会や部活動と連携した通学路清掃や職業体験イベント支援により、地域貢献を推進した。 【課題】 ・生徒の主体性や地域連携活動の持続性の確保。	・地域と協働した学校外活動や探究的学習は充実しており、生徒の視野拡大や主体的な成長に寄与している。 ・交流機会の多さには配慮も必要だが、コミュニケーション力育成に有効であり、継続が望まれる。 ・規範的な取組も評価でき、立場や役割の違いへの理解を深める指導も求められる。	A (A)	・地域と連携した学習活動においては目的と育成したい資質・能力を明確化し、事前学習一体験一振り返りの学習循環を徹底する。
			人権意識を育む指導	・道徳教育(人権)の視点を踏まえた授業を定期的実施し、生徒自身の人権意識の高揚につなげる。 ・いじめについて年間を通して生徒からの相談を受ける体制を整備し、いじめの予防および早期発見に努める。 ・毎学期、人権教育ホームルームを実施し、その様子を情報発信する。 ・生徒・教職員・保護者を対象とした人権教育講演会を実施する。	3.2 (3.1)	3.1 (3.0)	3.1 (3.0)	B (B)	【結果】 ・道徳・人権の視点を明確化するため、シラバスにグランドデザインの項目を追加した。 ・年間を通じたいじめ相談体制を整え、予防と早期発見に努めた。 ・江津市の支援事業を活用し、自己分析と命の尊さを学ぶ機会を設けた。 ・移動に不安のある方へ、配車サービスの利用方法を学ぶスマホ教室を実施した。 【課題】 ・SNS上等における振る舞いの検証。	・人権意識を啓発する機会が設けられ、学校評価はB評価、職員・保護者評価も概ね良好である。 ・授業、講演会、地域連携など多角的な取組により人権教育の広がりが見られ、知識にとどまらず、日常の行動につながる実践が期待される。 ・学校行事を通じた醸成も進み、思いやりある生徒の姿が見られる。個々を認知する指導の充実も望まれる。	A (A)	・人権教育を行事中心から日常の行動改善へ発展させ、授業や学校生活に人権の視点を意図的に組み込む。
		学習力の向上	探究的な学びを育む指導	・地元企業との協働探究学習を通じ、地域貢献に向けた姿勢や主体的に学ぶ態度を育成するとともに、生徒に多様な学びの機会を提供する。 ・授業を通じて、デジタル人材に必要なスキルを学べる機会を提供する。	3.3 (3.3)	3.2 (3.2)	3.3 (3.1)	A (A)	【結果】 ・協働探究学習で地元企業と連携し、来校・オンライン指導のもと、対話的な課題解決活動を実施した。 ・ドローン技術の自動撮影や飛行制御の学習を通じ、データ処理と技術理解を深めた。 【課題】 ・地域企業との協働探究学習の成果の検証。	・2年生の企業連携探究や3年生の課題研究は、教員の伴走のもと充実した学びとなり、生徒・企業・教員にとって貴重な機会となっている。 ・運営協議会報告からも取組の充実がうかがえ、地元企業との継続的連携により、実社会と結び付いた専門的学習が展開されている。 ・今後は成果発表や地域還元機会を充実させ、生徒の主体性向上を図る工夫が望まれるとともに、DX推進と専門性深化の両立も期待される。	A (A)	・地域企業との協働探究学習の成果を可視化するための評価基準とルーブリックを整備し、学習前後の生徒の変容を検証する。
			主体的な学びを育む指導	・単元振り返りシートを活用し、学習の振り返り活動を確実に実施して、家庭学習の充実や主体的な学びを実現する。	3.0 (2.9)	2.9 (2.8)	2.8 (2.8)	B (B)	【結果】 ・単元振り返りシートや単元振り返り記録用紙を活用し、学習の振り返りと自己調整力の向上を図った。ただし、自主的に家庭学習に向かう態度の育成は十分とは言えない。 ・朝学習で活用するプリントや、読書習慣を促進するための書籍をクラスに設置し、生徒が継続して取り組めるよう環境を整えた。 【課題】 ・主体的な学びにつながる学習支援の検証。	・主体的に行動する生徒の姿が見られ、研究大会や発表会を通じて主体的に考える力の向上も感じられる。一方で自己評価は低く、探究学習の成果が主体性に十分結び付いていない点は要因の確認が必要である。 ・振り返りシート活用など自己調整力向上の取組や学習環境整備は評価できるが、家庭学習習慣の仕組みづくりが課題である。 ・読書・復習の習慣化も継続が望まれる。	A (A)	・家庭学習の内容等を可視化し、生徒の自己管理を促進する。
		社会人基礎力の向上	挨拶や身だしなみ、掃除などの指導	・身だしなみ指導の結果を生徒・教職員全体に周知し、現状を共有する。 ・生徒会を中心に校則について協議し、必要に応じて見直しを検討する。	3.3 (3.1)	3.0 (2.9)	2.7 (2.5)	B (B)	【結果】 ・身だしなみ指導の結果を共有し、校則の見直しを生徒会で協議した。 ・式典マナーを指導し、規律ある行動を徹底した。 ・がん教育講演会で生活習慣の改善を促進した。 ・清掃時に音楽を流し、清掃意識を向上させた。 【課題】 ・校則について、生徒・教職員・保護者の考えの共有。	・挨拶は概ね良好で、気持ちのよい学校風土が感じられる。 ・生徒会による校則協議など生徒主体の姿勢も評価でき、規律ある学校生活の基盤づくりは進んでいる。一方で生徒・職員・保護者間の評価差が見られ、状況確認が必要である。 ・規範意識を外面的遵守から自律的な内面形成へ発展させる指導と、挨拶の継続的な取組が望まれる。	A (A)	・挨拶や身だしなみ、清掃などの生活習慣の評価基準を明確化する。
			時間の管理と計画的な行動を育む指導	・学校安全の日を周知するとともに、生徒に校内安全点検を実施させることで、危険予知に関する訓練を実施する。 ・実習前のミーティングを実施し、作業内容の確認や協働活動がスムーズに進むように指導する。	3.1 (3.0)	2.9 (2.8)	2.7 (2.9)	B (B)	【結果】 ・実習前のミーティングで、授業の流れや課題等の締切について共通認識を図ることで、時間を意識した行動が取れるようになった。 【課題】 ・生徒個々への効果的な支援。	・実習前ミーティングで流れや締切を共有し、時間を意識した行動につなげている点は評価できる。 ・共通理解の取組は協働活動の円滑化にも有効で、計画的行動を育む指導もうかがえる。一方で全体評価は低く、評価基準の再考と過度な管理にならない配慮が求められる。	A (A)	・実習前ミーティングを充実させ、工程と時間配分を可視化することで、生徒に見通しを持たせる。
	危険予知能力と技術力・判断力が身につく指導		・学習前のミーティングにおいて服装チェックを徹底する。 ・実習レポートに安全作業に関する反省を毎回記載するよう指導する。	3.4 (3.3)	2.9 (2.9)	3.3 (3.1)	A (B)	【結果】 ・入式後に自転車ヘルメット着用推進員任命式を行い、生徒の安全意識向上と保護者への周知を実施した。 ・学校安全の日の周知と学期ごとの安全点検活動により、危険予知能力を育成した。 ・学習前ミーティングで服装チェックを行い、安全意識を高めた。 【課題】 ・実習における服装や安全作業の不徹底。	・日頃の指導が生かされ、安全指導は概ね徹底されている。生徒自身が危険を見つける力の育成も重要である。 ・服装チェックや安全レポート、ヘルメット着用推進員の任命、安全の日の活動など具体的に継続的な取組は高く評価できる。 ・安全意識の向上を図り、「自分の身は自分で守る」指導の継続が望まれる。	A (A)	・安全指導において事故事例やヒヤリハット事例を共有し、生徒の危険予知能力を高める指導を実施する。	
	キャリア教育の充実	生徒の進路意識を高める指導	・地元企業による進路ガイダンスの事前・事後指導を通して、地元企業の魅力への理解を深める。 ・キャリア・パスポートを活用し、自己理解を深めるとともに、進路意識を高める。	3.4 (3.2)	3.1 (3.1)	3.3 (3.1)	A (B)	【結果】 ・3年生向け校内企業説明会や、浜田市・江津市地区の合同説明会への参加により、進路意識を向上させた。 ・1・2年生向け説明会や、広島工業大学・島根職業能力開発短期大学校見学、希望者の島根大学OC参加により、進路選択の視野を拡大させた。 ・キャリア・パスポートの活用により、自己理解促進と進路意識向上、将来目標形成を支援した。 【課題】 ・進路活動における地域と生徒の考えの乖離。	・進路指導は概ね充実しており、探究活動や地域貢献も進路意識向上につながっている。 ・企業説明会や大学見学、インターンシップなどにより具体的な選択肢を提示し、生徒の視野を広げている。 ・キャリア・パスポートの活用は自己理解の深化に有効で、見学や体験を通じて主体的に考える進路指導も進められている。一方で選択肢の多さによる迷いも懸念され、選択基準の明確化や指導の在り方の整理が求められる。	A (A)	・進路指導に関する活動の前後に価値観整理と生徒との面談を実施し、進路の選択基準を生徒が明確に持っている指導を実施する。	
		進路実現に向けた指導	・学科や担任と連携し、HR等で就職・進学学習の機会を設け、資格取得意欲を向上させる。 ・数学はTTで学習支援、英語は放課後に資格取得支援を実施する。 ・求人票管理システムを活用し、生徒の就職活動を支援する。	3.4 (3.2)	3.2 (3.2)	3.4 (3.3)	A (A)	【結果】 ・数学TT授業94時間、英語放課後補習29時間を実施し、学力向上と資格取得を支援した。 ・『進路の手引き』に資格取得時期を加え、3年間の見通しを支援した。 ・求人票管理システムで閲覧環境を整備し、進路選択を支援した。 ・資格対策や個別面談により進路決定準備を促進した。 【課題】 ・難易度の高い資格試験受検者数の減少。	・個々の意思を尊重した進路指導が行われ、十分な時間と労力をかけた支援体制が整備されている。 ・TT授業や放課後補習、求人票管理システムの活用など具体的支援も充実している。 ・県内就職率の高さは地域や家庭への貢献として評価できる。一方で難関資格受検者や四年制大学進学者の減少が課題であり、早期の意識付けや学力向上策、資格取得の継続的指導が求められる。	A (A)	・難関資格取得や大学進学を支援するため、1年次から体系的キャリア教育を実施する。	
		教育活動や部活動、地域とのかかわりの発信	・小中学校や地域へ生徒が情報発信する機会を設け、オープンスクール等で連携を推進する。 ・島の星山登山道整備などの協働活動や課題研究を通じ、地域貢献と奉仕の精神を育成する。 ・年休取得(目標16日)を促進し、時間外勤務15%削減を推進する。	3.3 (3.2)	3.4 (3.4)	3.5 (3.6)	A (A)	【結果】 ・ホームページやSNSを活用して情報提供を行うとともに、生徒の立案による学校案内作成やオープンスクールを実施した。 ・島の星山登山道整備の協働活動を通じ、地域の魅力理解と地域貢献を推進した。 ・衛生委員会が休暇取得状況や時間外勤務を共有し、休暇促進と業務削減を図った。 【課題】 ・情報発信の効果の検証。	・SNSやホームページ等を活用した情報発信により、学校の様子が家庭や地域に広く伝わっている。 ・生徒主体の広報活動やオープンスクールも積極的に進められている。 ・地域行事ボランティアやものづくり活動、登山道整備などの地域連携は、郷土愛や奉仕の精神を育む貴重な機会となっている。 ・人材育成と地域貢献につながる取組として、継続が望まれる。	A (A)	・生徒による情報発信を促進し、生徒の主体性とコミュニケーション能力を育成する。	
	学校の活性化	生徒の安全を考えた環境整備の充実	・新設校の開校を見据え、限られた予算の中で生徒の安全を最優先とした環境整備を計画的に行い、常に安全性を確保できるよう努める。	3.2 (3.1)	3.0 (3.4)	2.9 (3.0)	B (B)	【結果】 ・生徒による危険予知活動を行い、危険予知意識を高める活動を実施した。 ・生徒による安全点検実施後、必要な箇所について修繕を行った。 【課題】 ・新設校開校を見据えた整備。	・高校統合を控える中でも、生徒の安全確保を最優先とした取組が着実に進められている。 ・修繕や環境整備、安全意識向上には意義深く、評価Bも妥当であり、地域安全にも貢献している。 ・今後は新設校開校に向けた具体的な環境整備計画の早期確立が望まれる。	A (A)	・新設校を見据え、優先順位を考慮した環境整備を実施する。	